

池田清助君傳

○池田清助君傳

世人は能く池田清助君を知らん然れども未だ其昔日の池田清助君を知りざるへし世人は君か嘗て寒貧なりし事を記せん而して今日の富豪を致したるを目撃したるなりん然れども其今日を致したる所以のものは其何の故たるを思はざるありん世人は或ハ僥倖の致す處或ハ運命の然りしむる所なりと評せんか余輩は君か爲めに其冤を雪かざるを得す否な獨り君か爲めのみにあらずざるあり世間多數の後進の徒の爲めに聊か其方針を示さるへかりざるなり抑も浮沈限りな人人生に處して變遷際な世界に居る焉んを能く手に唾して富貴を取らんや況んや出沒限りなく陰晴不定の今日の商業世界に於てをや古人曰彼を知り已を知る百戦不危又曰禍を轉して福と爲すと今の商業界に馳驅せんと欲するものは少なくとも此の伎倆なかるへかりす夫の

池田清助君傳

僥倖を恃み運命に依頼するものゝ如く固より論するに足らざるなり
余輩は今君の傳を序するに當りて故に數言を陳述したるものは獨
り君の成業を多とするのみならず亦併て一般商人の爲めに注意を請
はんと欲するの微意に出づるあり

余輩は君の成業を以て偶然と爲さず君か今日の地位を致したるもの
は皆偏に君の敏腕に歸せざるを得ざるを知るものあり敏腕とは何と
や曰く先見なり膽略あり誠實あり忍耐あり凡そ此の四つのものは則
ち君をして今日あらしむる所のものにあらずして何うや請ふ序を追
ふて之を論述せん

君幼名新之助と稱す父は清右衛門和歌山縣人あり天保十年正月十五
日君を紀伊國伊都郡眞土村(今隅田村と稱す)に生む清右衛門四子あり
君は其長子なり君幼して穎悟兒戲を好まず殆ど舉止大人の如し父母

池田清助君傳

隣里相稱して之を奇とす君性至孝能く父母に事ふ未嘗て其意に忤はす年十二にして父を喪ふ慟哭して寢食を廢するに至り親戚家人大に之を憂へ慰諭至りざるなし既にして君慨然嘆して曰く嗚呼命なり命なり幼にして父を喪ふ不幸焉より大なるはなし然れども今や追ふへかりす兒之を聞く身を立て家を起し父母の名を顯はす孝の終ありと今や父已に没して俸養を尽す能はずと雖ども他日身を立て家を興すの日ある亦以て亡父に地下に報すへしと端然として襟を正ふし左右を顧みて涙を揮ふ一坐感嘆皆泣く君か家世々農を業とす然れども農事は以て君か驥足を展ふるの地にありす君は其大志を成さんことに急なり日に其業を轉せんことを思ふ年僅に十三母の許を得薄資を以て雜貨の行商を試む是れ君か商界に足を投したるの始めにして抑も亦家を興すの端緒あり已にして君又以爲らく行商の業たるや勞多く

して報少あし宜しく大都會に出て、巨利を博するの道を案せざるへ
かゝるありと乃ち慶應丙寅の年大坂に到る將に大に爲す處あらん
とす然れども固より資本に乏し死の故を以て百方計畫する所あり
と雖ども尙行商を爲すの運命を脱する能はず已にして快報あり神戸
港を開かんとすと君の此の報に接するや蹶起して曰く時機到れり我
資本に乏しと雖ども豈に乗すべしの際なかつんやと去て神戸に到り
其地を相するに今の神戸港の市街たる當時尙寥々恰かも曉星を望む
か如く僅に處々に人家の散在するを見るのみなりと然れども海水深
く地峽灣を爲し巨舶大艦を泊するに便あれば將來の繁榮亦疑ふへか
ゝるものあるを思ひ終に立脚の地と決定せしか資本の乏し死か故
に商店を開くを得す日に一旅店の樓上に在て呻吟しつゝ街頭を望
み見るのみ偶々米國軍艦の同港に碇泊するものあり水兵日に上陸し

て徘徊願望の狀を察し以爲りく彼等は我國の事物に於て總て珍奇の思を爲さゝるはあけんど乃ち旅店の主人に謀り其店前を借り雜貨を陳列して彼等の舉止を伺ひしに彼等は果して店前に集り争て之を買ひ取らんとす然れども言語通せむ僅に指を以て其高低を説くのみ我二指を挙げ二朱なりと云へは彼れは二弗なりと誤解し或は一指を出し一弗を投して買ひ去るもの少なかりす君は此舉に於て非常の利益を得たり終に雜貨商店を開き越後屋と號し廣く外人と取引を爲すに至る蓋し神戸港の雜貨商は君を以て嚆矢となす人其敏捷に眼せざるものなし

君は能く先見の明あるのみならず又能明察なり維新の前に於て能く外國貿易の隆盛に趣く事を看破したるものは君か先見の明に歸せざるを得ず君は能く自己を利すると共に亦能く國家を益せり明治九年

池田清助君傳

鐵道局雇露國人エンノールステット氏任滿ちて將に歸國せんとするや途英京に立寄るを以て頻りに君に同行を勸む君も亦商況視察の心切なるを以て渡英の意なれにありすと雖ども故あり果さず乃ち店員永井泰次郎をして代て同行せしむ永井倫敦に留る一年にして歸る得る所少なかりすと云ふ神戸商人か店員を歐米に派遣したるもの亦君を以て先鞭となす

君は未だ自り歐洲の形勢を實見せずと雖ども嘗て店員を派遣するのみなりす亦能く注意を以て外人に接するか故に自かり彼等の情況を知悉し彼等の嗜好を會得したり是を以て其製出する所の銅鍍漆陶象縫等の工藝品器用物一として彼等の意に適せさるなく賣買日に多くして家道益々旺盛なり特に縫箔の屏風に至つては君か創意に係る君嘗て京都の縫箔師田中利兵衛に托して試みに之を製し一外商に示す

池田清助君傳

外商嘆美舍かず君因て盛に之を製造す需用果して多し今や一ヶ年の輸出高實に數十万圓の上に出つると云ふ職工輩の依て以て生計を立つるもの少なかす相共に君の功德を稱し爲めに紀念碑を建設せんとするの舉あるに至ると云ふ君か外國貿易に熱心にして其輸出を試みし處のものは獨り此に止まりす是れ僅かに其一二を記するに過ぎざるなり明治十二年君名を長子に譲り自かす清助と改む時の兵庫縣令森岡昌純氏君か能く獨立一個人の力に頼りて大に貿易を擴張し國家を裨益すること少なかするを嘉みし屢々褒賞する處あり

君嘗て神戸電信局雇英人ラーキン氏と親交あり氏最も我か陶漆器を愛す常に云ふ余歸國の上は日本産の美術品を蒐集し一箇の商店を開かんと明治十四年一月雇期限満ちて將に歸ふんとするや君に同行を勸む同港の人濱田篤三郎は君と其郷里を同ふするを以て最も親善な

り君嘗て氏に謂て曰く今日の急務は海外の事情を知り海外の語に通するにあり余輩年齢既に長す然れども宜しく年少を獎勵して語學と商業學とを研究せしめざるへかりすと又嘗て長子清右衛門氏を渡歐せしむるの議あり清右衛門氏新婚の妻君子亦夫に従て渡歐の念切あり是に於て君ラーキン氏に托して清右衛門夫妻を英國に遣り多く商品を買ひし實地に就て賣買掛引の經驗を爲さしむ縣令森岡氏之を聞け痛く君の舉を賛し爲めに盛宴を張り祖餞す又頗る周旋して利便を與ふる事少あかりす清右衛門氏夫妻日なりすして著英し直に商店を開けり居ること三年明治十七年一月に至りて歸朝す同年五月君海外直輸の業を親友濱田篤三郎氏に譲り又内國直賣店を清右衛門氏に與へ自かり京都に移住し美術品の製造を督勵せり以爲るく我邦の美術は世界に冠たり若し獎勵其道を得は是亦國家の富源なり米國の粗

池田清助君傳

造品に富み英國は製造品を出し瑞國は工藝品に巧みなり我國は宜しく美術品を出して相競争せざるへかりす且つ經濟の理に於て美術品の利に及ぶものありされは是れ當に勉めざるへかりざる處なりと特に東海道の鐵道も其竣功又遠かりされは外人の京都に來遊するものも蓋し日を追ふて増加するに至らん此の際宜しく彼等の嗜好を察し彼等の需用に應ずるの用意なかるへかりすと乃ち同年八月支店を開け多く良工を雇ひ盛んに美術品の製造に従事し大に海外輸出の計を爲す明治廿年東海道鐵道の成るや外人の京都に來るもの果して踵を接し君か店前日として紫髯綠眼を見ざるなり抑も亦君か先見に職由せずんはありざるあり

明治十九年四月雇人吉田章三郎を隨へ英京に趣く蓋し支店の殘務を整理するの傍歐洲に於ける商業上の形勢を視察せんか爲めなり居る

池田清助君傳

こと一年にして歸朝す君英に在るの日或ハ巨商と相往來して互に商機を談し或ハ市街に徘徊して彼等の店頭を熟視し或ハ製造場に臨て其模様を察し大に需用供給の方針を明かにして得る處少なかきと云ふ歸るの後其海外に於て得たる處の新智識を加へ益々美術の製造に力を尽し大に外人の喝采を博するに至れり二十三年一月東京に支店を置け關東の美術品を蒐集し之を京神に輸さしめ兼ねて京濱間の取引を行ふ君は固と一農夫の子のみ而して今や其勢斯の如し君か今日あるもの豈に故をかくんや

余輩ハ業已に君か先見と明察とを序したり是より一轉して忍耐と膽略とを記せん君は獨り先見の明あるのみならず又能く膽略に富み忍耐に強し君は今日に至る迄常に平坦なる道途のみを行はしにありざるなり或ハ裳を褰て大川を渉りしこともありん或ハ羊腸たる險山を

池田清助君傳

踏み或ハ汪洋たる激浪を踰へしこともありん一言に之を云はし細さに人生の艱苦を嘗め得たりと云ふへし君か初めて行商を爲すや年僅かに十三に過死す十三才の小童を以て險を踰へ危を踏み能く千里に旅行するものハ豈に膽勇にして氣豪なるものにありすや君か家固と饒ありす父清右衛門氏没するの後は君非常の重荷を負擔せり君を外にして尙三人の弟妹あり母氏賢と雖ども焉う能く一婦人の手を以て五人の口を糊することを得んや是れ君の奮勵せざるべかりざる所以なりしなりん君は屢々加越能等の遠國に來往して行商を營なめり母氏常に之を憂ふと雖ども君は却て平然たり家に在ては能く母氏に事へ弟妹を慰撫し外に出ては能く其業を勉め日として多少の利益を収めざるハあし是を以て一家和樂し幸にして凍餒の憂ありものは偏に君か勵精の致す處にありすんはありす君か神戸に移住して雜貨商

池田清助君傳

店を開くや資本次第に増加し來りしを以て明治七年大に其規模を擴張し居留地三十六番館に御小賣店を開け直接に外人と大取引をなさんとし英人二名を聘して書記となす今の三十五番館主デヤス氏及其書記モリズ氏即ち是れなり而るに僅かに二年に滿たずして閉店の不幸に遭遇せり蓋し當時我商人の風一般に尙陋劣にして遠大の考へなく直引賣買を爲し信用を博する能はず且資本の饒なりさるか故に商權は常に外人の手に歸し市場は彼等の蹂躪に一任するの外なり場合に當りて君は獨り毅然として西人の風を學び正札賣買を行ひしか故に却て他の無謀の徒の爲めに遮られ其目的を達するに至らずして止めり是れ君か失敗の第一なり明治七年獨逸人ハーブル氏我か函館領事として赴任の途次神戸に寄港す居留地二十五番館フアーバー氏爲めに紹介して君と相識るに至る遂に相約して共に雜貨の輸出を

池田清助君傳

試みんとす君ハーブル氏の言を信し多く雜貨を購入して之を托せり
ハーブル氏函館に到り未だ幾何ありすして邦人の爲めに殺害せしる
を以て大に君の望を失ふハーブル氏の手にある雜貨は悉く之を獨
國に輸送し競賣に付せしむるにハーブル氏は固官吏にして商人に
ありさるか故に商業上の經驗に乏しく彼れが販路多く利益少かな
さるへしと信したる所のもの一も其驗なく顧客極めて稀にして終に
投賣の已むを得ざるに至れり君ハ爲めに非常の損失を被りたり是れ
君が第二の失敗なり既にして君その商店を會社の組織と爲し丸越組
と稱し自かり其頭取となり直輸出及び内國直賣の両店を總括し内國
各地製産者の便を謀り依托販賣の道を擴張す偶農商務省出張官商務
局長前田正名氏神戸に來り直輸出の事に關し實業者を兵庫常盤花壇
に會し獎勵の談話を爲せり君亦其席にあり君が海外貿易に熱心なる

夙に政府の稔聞する所となるを以て前田局長の森岡縣令と共に君をして荷爲換を利用し大に其事業を擴張せんことを慫慂し且つ政府より相當の保護を與へんことを約す君固辭再三許さず是に於て君濱田氏に謀り正金銀行より五萬圓を借り入れ荷爲替を組み益々盛んに其業を擴張せんとし漸次其歩武を進めり經營期年事業漸やく緒に就んとす而るに明治十五年四月に至り政府は忽ち其方針を變して保護の政略を廢したると同時に君は直ちに保護金の還納を命せられたり君依て濱田氏と謀り前田氏が前日の言を証して請ふ處ありしも聽かれを爲めに非常の損害を被ふるに至れり此時に當り長子清右衛門氏の管する倫敦支店の雇人テーレーノルスなるもの不正の行爲ありて亦た數万圓を失へり君は保護金の還納に一頓挫を受け今亦雇人テーレーノルスの爲めに陥いれられ殆んど其豫望を空ふせり是に於て已を

池田清助君傳

得す一先倫敦支店を閉鎖し清右衛門氏も亦歸朝の途に上はれり是れ君か第三の失敗なり

余輩は業已に君か得意の歴史と失意の歴史とを記述したれば畧は君か性行を知るに足るものありん然れども尙此に一の特記すべしものあり君は獨り能く其商事に於て先見膽勇忍耐の稱すべしのみならず復た能く誠實にして人を愛し敦厚にして舊に篤し君嘗て舊和歌山藩主從二位徳川茂昭侯の囑を受け十三名の青年を蒸陶したることあり君懇到切實尽さるるをく終に大に商業上の實歴を與へ其啓發する所少なかりさりしか故に大に侯の感賞する所となれり君又義兄あり米田治右衛門と云ふ俱に佛教を信す相約して共濟會なるものを設け大に布教の爲に力を盡す共濟會費用少なかりす君其一半を負擔せり君慈善或は布教の爲めに錢財を吝まらず夫の京都共濟會佛教講義場の如

池田清助君傳

元は君が一箇の寄附に係れり又嘗て光村彌兵衛前田又吉長谷川一彦等の諸氏と謀り孤獨の窮民を賑恤するの目的を以て一社を興し恤救社と云ふ貧民の惠澤を要むるもの頗ふる多しと云ふ君が性行此の如くなるか故に遠近景仰來て其一身を投ずるもの前後その幾何あるを知りす君皆な爲めに之か處を興ふると云ふ君茲年五十三二男四女孫十人あり家道益々旺盛あり